

表題 木原 員会内案回時故開

No. 16

建設防災 ボランティアニュース

輝本内案回時故開

第16号の主な内容(目次)

- 1 頁:17年度定期総会、勝闘橋見学ツアー
- 2~3頁:勝闘橋見学ツアー案内体験
- 3~6頁:三宅島植栽ボランティア
- 7 頁:新宿西口広場「夏祭り」
- 8 頁:発行にあたって

東京都建設防災ボランティア協会

「第9回定期総会」開催される

去る6月15日14時から日比谷市民カレッジ教室において東京都建設防災ボランティア第9回定期総会が開催されました。当日は、あいにくの雨天でしたが、多忙のなか建設局野村企画担当部長、東京都公園協会山下理事長の来賓方々をはじめ90名におよぶ会員の出席を頂き盛会に開催されました。はじめに、沼尻会長から当協会の活動状況と会員の皆さんとの協力に感謝する内容の挨拶があり、次に来賓の方々より当協会の活動に対する賞賛と感謝を趣旨とする挨拶をいただきました。その後小森和夫さんを議長に選出し、16年度決算報告、役員選出、17年度予算、規約改正等の議題が審議され原案の通り承認されました。



(総会状況)

議事終了後、沼尻会長から17年度の各班リーダーの指名があり、委嘱状が手渡されました。続いて、昨年度当協会活動に功績の認められた会員の方々、奥富宣雄、菊池太彦、高橋好弘、高木正彦、三沢英夫の各氏に会長から感謝状が贈呈されました。最後に平成17年度事業計画(書)の説明があり、総会は、つづくなく終了し、懇親会へと場所を移動しました。

広報担当役員 小山 幸也

「勝闘橋」橋脚内見学ツアー

の案内活動始まる

当紙の前15号で状況報告致しました表記の協力・支援につきましては、会員各位のご協力を得まして、いよいよ橋脚内見学ツアーの案内活動が開始されました。

建設局は、歴史的な土木遺産である勝闘橋を広く都民に公開するとして、橋詰にある旧変電所を改装した「かちどき 橋の資料館」の開設と共に橋脚内の開閉装置を直接見学して貰う「ツアー公募」という企画を進めてきました。

建設局から見学ツアー案内役の協力打診を受け、協会員との協議を経て協力意向がまとまり、4月14日に建設局長、道路整備保全公社理事長、当協会長での三者協定が結ばれ、協力活動の運びとなりました。

連休はじめの4月29日には、当会の沼尻会長も招かれて、資料館の開館式典が催され、建設局長、中央区長、地元議員の挨拶や祝辞に続き、くす玉割や地元の伝統芸能の披露などが行われました。



(開館記念式典)

5月1日から一般公開が始まって、連休中は通して開館し、翌週からは火・木・金・土曜日の週4日の開館となりました。各種報道機関の取り上げもあってか、6月中旬には4,500人を超える入館者となつたとのことです。

一方、毎週木曜日の橋脚内見学ツアーも、5月12日の応募者から始まり、これまで各日4組の全てに見学応募者があるという盛況で、各当番班5名の会員が案内活動に汗を流しています。こちらも既に8月末まで応募が満杯だと聞いています。

案内活動に先立っては、協力会員87名の事前学習会が2日間に分けて催されました。和気あいあいの集まりの中にも、少し緊張感の漂う雰囲気が特徴的でした。その際、道路整備保全公社の支援で購入した高価な作業服・靴が配布され、該当日には、全員がこの統一服で身を固め、若返った姿での協力活動が続いています。



(事前学習会・橋上)



(事前学習会・橋脚内)

協力会員は、約3ヶ月に1日のペースで案内活動に当たる予定ですが、学童の社会科見学や土木専攻学生の見学対応などの話もあり、今後の協議事項となっています。

梅雨に入りましたが、幸いにも、現地に到着した見学者に中止を告げる苦しい事態は、まだ生じていません。

一方、これからは、厳しい暑さに向かいますので、協力会員の方々には、身体に留意されての活動をお願いしたいと思ひます。

なお、ツアービークルから都知事宛てにボランティアの活躍を含めて、当公開事業を賞賛した書状も届いているとのことですので報告致します。

事業担当役員 舟水 昭秀

「勝闘橋」橋脚内見学ツアー

開始初回案内体験

「勝闘橋」橋脚内見学ツアーの案内がいよいよ始まりました。

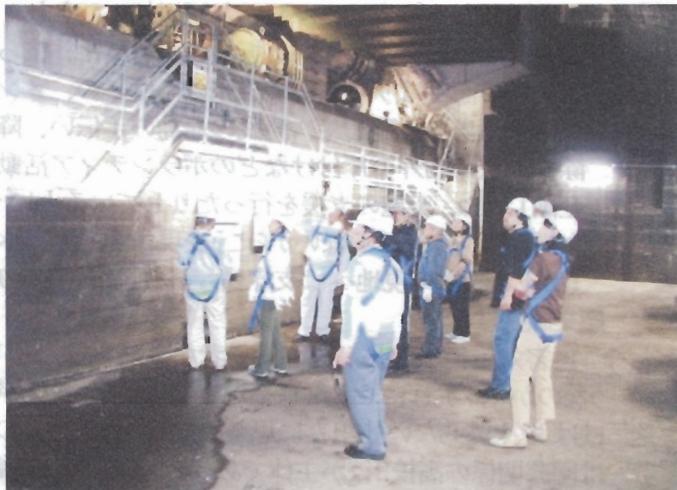
建設局からの協力要請以降、建設防災ボランティア協会当局による説明会、現地視察等を経て、多くの協力会員と共に当見学ツアーの案内役を担うことになりました。

5月1日の「からどき 橋の資料館」オープンに合わせて活動が開始されましたが、

奇しくも初回の5月12日が私の出番となっており、第1班5名での協議の結果、「説明」役を仰せつかりました。現職の時は長く道路関係の仕事に携わっていましたが、勝闘橋の知識は「跳ね橋」で「隅田川の最下流の橋」であること位しか知識がありませんでした。見学者に対して、十分な知識を持っていないと失礼に当たると思い、にわか勉強をしました。「説明マニュアル」は多いに役に立ちました。インターネットで「勝闘橋」の検索もし、4月25日に行われた事前研修にも参加しました。当日は「ハーネス」が届いていなかったので、ツアーの前5月10日に再度勝闘橋に行き装着の仕方、垂直梯子の降り方を実地に経験をしました。また、説明の内容についても、リハーサルを実施し本番に備えました。

当日は、天候に恵まれ5月の爽やかな風が心地よい位でした。自分としては万全な準備をしたつもりでも、不安がいっぱいでした。資料館の方々、協会役員の皆様も緊張していたのではないかでしょうか。いよいよ、第1回第1陣の見学者5名が揃いました。最初にボランティアが揃って挨拶をして、ツアーが開始され、DVDの鑑賞、シャーロックへの案内とスムーズに進んでいきました。見学者の皆様は勝闘橋に対してすごく興味をお持ちで、中には他の分野で活躍されている方もいらっしゃいました。第1回ということでマスコミの方も同行していました。機械室での説明をはじめ、皆様一生懸命説明を聞いていただいたように思います。また、我々に対しても、是非、開閉すべきではないか、すべて現状は当時のままか等々、多くの質問も出されました。曲がりなりにも答えられたのではないかと思います。全員が協力して第1回のツアーが終わり、ほっとしました。当日は4組を案内したわけですが、回を重ねるごとに、ガイドの要領、説明の内容、ハーネスの操作がうまくなっています。見学者の方々が一様に大変素晴らしかったとおっしゃっていました。そして、勝闘橋の魅力、土木遺産としての価値等を認識し、感動もしていただいたのではないかと思います。

第1班の活動をとおして、当日、次の点を確認しました。説明者の周到な用意と勉強。受付の仕事、手順の確認、ヘルメット・紙帽子等の準備。ハーネスの操作(安全帯の緩め、向き等)と整理収納の気配り。電源3箇所確認の気配り。等々について留意したらよいのではないかという点です。なお、役員から第1回の見学ツアーの実施結果を踏まえて、ミニツアー行動要領(改訂版)が5月13日付けで出されました。大変要領良くまとまっており、感心するとともに、ご努力に感謝したいと思います。この行動要領と説明マニュアルがあれば見学ツアーが成功裏に展開していくのではないかと思います。



(橋脚内での見学ツアー参加者への説明状況)

勝鬨橋の価値とロマンを次世代へと「からだき 橋の資料館」と「見学ツアー」を通じて我々ボランティアも少しでもお役に立てればと思っています。

新井 敏男
三宅高校の裏の山裾に大きな砂防ダムを工事中であったが、自然保護の立場からどうしてこんなところにダムが必要なのかという声が多くたったという。山腹の状況を知らない麓の人たちの目線での声としては当然と思われる状況の場所であった。もっと山腹の状況をなんらかの方法で世に訴えることが必要ではないだろうか。植栽に参加した人にもこのような山腹の状況を見てもらい、現実の姿を知ってもらうことも必要ではないだろうか。

三宅島植栽ボランティアに参加して

1. 防災への取り組み

- 都道の復旧完了に引き続き、砂防ダム51基が本年度完了するなど、建設局所管の災害復旧工事がおおむね終了すると、巡回都道からは災害が見えなくなり、町民はじめ来島者は「島の災害復旧工事がすべて終了し、島は無条件で安全になった」と思われることが大変心配である。

2. 山腹の状況はぞつとする

- 2日目、支庁の田草川係長にご案内いただき、島を一周し危険箇所(伊ヶ谷沢～村営牧場～角屋敷、金曾沢)を視察した。
- 山腹へあがるとスコリアが大量に堆積していたり、スコリアが一面に流れ出し治山ダムを埋め尽くしていたり、大規模なガリ一浸食が発生していたりきわめて危険な状況が随所に見られる。また、鉢巻き林道も復旧が全くといって良いほど手が着いておらず荒廃したままの状態で放置さ

れている。山腹での荒れたままの様子をもっと世の中に見せるべきである。



(山腹の状況)

- 大量に堆積しているスコリアの対策として、山腹での面の安定対策に於ける治山ダムの建設をもっと積極的に進めるとともに、泥流(スコリア流?)の流れを安全な方向に誘導するための流路の設置を早急に行うことが重要と思われる。
- (角屋敷で巡回都道付近で流路整備の準備中)
- 鉢巻き林道も全くといって良いほど復旧が進んでいない(放置されっぱなし)

三宅高校の裏の山裾に大きな砂防ダムを工事中であったが、自然保護の立場からどうしてこんなところにダムが必要なのかという声が多くたったという。山腹の状況を知らない麓の人たちの目線での声としては当然と思われる状況の場所であった。もっと山腹の状況をなんらかの方法で世に訴えることが必要ではないだろうか。植栽に参加した人にもこのような山腹の状況を見てもらい、現実の姿を知ってもらうことも必要ではないだろうか。

(現地へ上るのは危険なら、写真等で解説するなど)

3. 緑化について

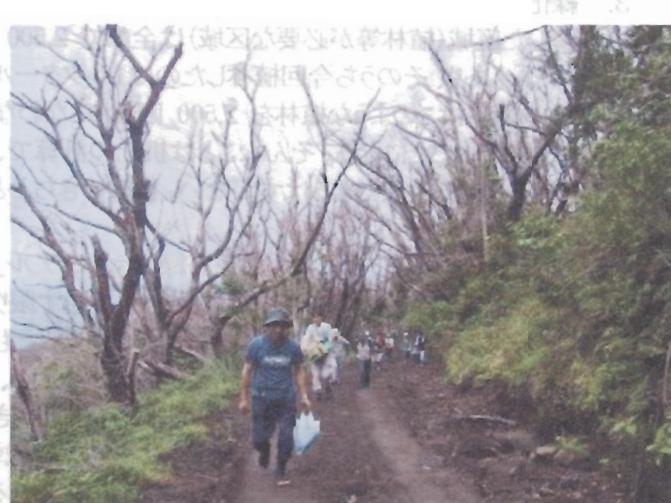
- 荒廃した区域(植林等が必要な区域)は全部で2,500ヘクタールもあり、そのうち今回植林したのは1ヘクタールという。単純にはこのような植林を2,500回もおこなわなければならないことになる。そんなことは机上の計算で、しかし、いつまで放置できるはずがない。行政のきちんとした対応が必要である。
- 「三宅島緑化ガイドライン」「三宅島緑化マニュアル」が配布され、若干の説明があった。ざっと目を通す限りでは、緑化の考え方、目的、基本方針などを整理したものにとどまっている。もっと具体的に、誰が、いつから、何を、どう行うのかなどの行動計画を明示する時期にきていたいと思った。今回のような市民を中心とする植栽も、その行動計画の一環として具体的に位置づけられることが大切であると思った。

4. 植林作業について

- 植林は、釜の尻でバスから降りて、土佐林道を登りはちまき林道をしばらく歩く、およそ40分程度のところであった。あらかじめ杉の立ち枯れを伐採してあり、その合間に新しい苗木を植える作業であった。
- 植え方については三宅村森林組合の方が手本を見せてくれた。およそ一人当たり10本が目安だそうだが、我々は一人20本は植えたと思っている。苗木はオオバヤシャブシ、ヒサカキ、ヤマツバキのポット苗であるが立派に育つことを祈る。
- 1時間半くらいで植樹を無事終えるころができた。秋田県立鷹巣農林高校の参加者が持参してきた秋田杉もあわせて植樹した。

5. 参加して

- 梅雨時は植樹に適した天候であるが、作業的には厳しい時期である。火山ガスの発生状況等も含め作業の安全に対する判断を誤らないよう細心の注意が必要である。
- 「当初計画の11日は小中学校を登校日として、地元の小学生も参加する予定だったが、台風の接近で1週間順延になったため、今回は参加できない」と、村長の挨拶の中であった。確かにそうであったかと思うがどこか吹っ切れないものが残った。(11日の登校日を変更できなかつたのだろうか？何かさめた感じ)
- また、村の職員らしい人の存在も気がつかなかつた(もしかして本当の黒子に徹していて気がつかなかつたのか？)今回の植樹において、村の立場、役割は何だったか、疑問が残るとともに、これでよいのか？
- 支庁は？おそらくは支庁の産業課の皆さんが現地で活躍してくれていたんだろうと想像する。(現地スタッフの誰が誰だか良くわからないからこう表現させていただく)
- しかし、植樹の現地へは支庁長も土木課長も不参加。産業課長は？



(植林地へ向かう参加者)

・ 災害対策担当部長が最高責任者なのか、支庁長がそうなのか、いずれにせよ東京都が主催したのか、気がつけばよくわからない仕組みに思えた。参加者が我々の他は園芸関係の高校3校が主体であった。その点では混乱がないように見えたが、仮に一般公募等を行うとしたら、主体をもっときちんときべきだと思う。

2日目の朝、三宅高校へ集合してとき、三宅島災害・東京ボランティア支援センターのメンバーの一人坂上さんから、「お久しぶりです、やはり高本さん参加されてましたか」と挨拶された。そうだ、当時(2000年、河川部長のとき)三宅島島民ふれあい集会を

やりたいので協力してほしいと河川部にこられ、その後何度もお会いしている坂上さんだった。彼らセンターの面々はリーダーの上原さんはじめ、メンバー5人は島に常駐して、島民の帰島の手伝い、降灰除去、家の内外の片付けなどのボランティア活動を企画したり、実施の支援を行ったりしているという。(誰が誰だか良くわからないからこう表現させていただく)

しかし、植樹の現地へは支庁長も土木課長も不参加。産業課長は？

災害対策担当部長が最高責任者なのか、支庁長がそうなのか、いずれにせよ東京都が主催したのか、気がつけばよくわからない仕組みに思えた。参加者が我々の他は園芸関係の高校3校が主体であった。その点では混乱がないように見えたが、仮に一般公募等を行うとしたら、主体をもっときちんときべきだと思う。

・ 2日目の朝、三宅高校へ集合してとき、三宅島災害・東京ボランティア支援センターのメンバーの一人坂上さんから、「お久しぶりです、やはり高本さん参加されてましたか」と挨拶された。そうだ、当時(2000年、河川部長のとき)三宅島島民ふれあい集会をやりたいので協力してほしいと河川部にこられ、その後何度もお会いしている坂上さんだった。彼らセンターの面々はリーダーの上原さんはじめ、メンバー5人は島に常駐して、島民の帰島の手伝い、降灰除去、家の内外の片付けなどのボランティア活動を企画したり、実施の支援を行ったりしているという。

三宅島緑化プロジェクトに参加してきました

東京都三宅支庁主催による三宅島緑化プロジェクトに参加してきましたので、報告します。

参加メンバーは、新井さん、高本さん、中田、矢野さんの4人。今回の参加団体は、我々の団体他、NPO法人園芸アグリセンター(14人)、三宅島災害・東京ボランティア支援センター(5人)、都立園芸高校(35人)、都立三宅高校(数人)、秋田県立鷹巣農林高校関係者(1名)でした。

植林は6月18日(土)午後2時から1時間程度行ないました。三宅村森林組合の方々の指導を受けながら、事前に準備された約1.5ヘクタールの土地に3種類の苗木約1000本強を植えました。植林中を含む島滞在中は二酸化イオウガスの濃度も低く、ガスマスクの着用はありませんでした。順を追って報告します。

(事前準備)

二酸化イオウガスが依然として雄山から多量に噴出している現状から、ボランティア参加の条件として、火山ガスの健康に与える影響に関する事前研修(リスクコミュニケーション)を受けることが必要でした。それは喘息等の呼吸器疾患や循環器疾患のある人はボランティア参加が出来ないことになっていたからです。この研修は慶應義塾大学の大前和幸教授が講師で、事前に提出していた健康調査票で可否が判定されました。4人とも可の判定でした。

(1日目 6月17日(金))

22時30分竹芝桟橋を出港。

(2日目 6月18日(土) 曇り時々雨)

朝5時10分三宅島三池港着、雨が降っていた。昨夜は大雨が降ったとのこと。海岸から200メーターぐらいは火山灰の影響なのか白く濁っている。仮眠のあと、10時から三宅高校でガイダンスを受ける。

① ガイダンス(1)三宅島における火山活動の歴史・噴火の特徴

- ・ 講師は三宅高校の青谷先生
- ・ 1940年、1962年、1983年の噴火は割れ目噴火で、溶岩やスコリアを噴出した。今回は雄山の山頂噴火で火山灰を噴出し、火山ガスの噴出は依然として続いている。

(二酸化硫黄放出量は現在3000トン/日程度)

② ガイダンス(2)三宅島緑化ガイドライン

- ・ 講師は都産労局農水部森林課の市村係長
- ・ 噴火により島の緑は45%減少、面積にして2500ヘクタールが失われた。
- ・ 復興にあたり、泥流量削減、斜面安定方策として緑化がとても有効であり、緑化材料としては島の在来植物を使用する。
- ・ 苗木の生産、植え付け等には多様な団体等との連携が必要。

昼食後、釜の尻入り口まで都道をバスで移動、そこから島下の植林地まで急坂を約40分歩く。

午後2時から植林を開始

- ・ 植林地は杉林が被害を受けて枯れたところで、枯れ木は伐採して苗木が植えられるように準備されていた。
- ・ 苗木は、オオバヤシャブシ、ヤブツバキ、ヒサカキの3種類。
- ・ 三宅村森林組合の方が苗木の植え付け方法を指導

してくれた。

- ・ 私たちのグループは、1人当たり20本植えた。



(植林箇所)

(3日目 6月19日(日))

10時から意見交換会が持たれ、竹内部長からは、自然の回復は島にとって急務であること。今回は第1回であり慎重を期してこれまでに島の緑化に関係した団体にのみ声をかけたこと。今回の経験を踏まえて次回以降の植林を行なっていくこと。都と村は今後もしっかりと緑化プロジェクトを支えていくこと等の挨拶があった。終了後、支庁の田草川係長の案内で砂防ダムの工事現場、村営牧場跡ほかを見せていただいた。現場をつぶさに見たことにより、緑化の緊急性・重要性を感じました。係長さん有り難うございました。

14時30分 三池港から「さるびあ丸」に乗船して東京へ。

20時30分 竹芝桟橋着 調査団4人無事に役目を終えた。

中田勝司

三宅島緑化プロジェクトによる現地植栽に参加して

三宅島の自然回復のための緑化活動についての参加要請が三宅支庁よりなされ、当建設防災ボランティア協会としても現地状況調査および今後の取り組みについての状況

把握のため 今回は高木正彦氏、中田勝司氏、新井敏男氏、と私矢野末義の4名が参加することになった。参加予定団体は「ボランティア緑化プロジェクト」として1.NPO法人園芸アグリセンター 2.東京都建設防災ボランティア協会「学校関係連携緑化プロジェクト」として 1.都立三宅高校 2.都立園芸高校「協力団体」として 1.秋田県立鷹巣農林高校 2.三宅島災害・東京ボランティア支援センター 3.三宅村森林組合 以上の団体が参加して行われることになった。



(荒廃した山腹)



(建設防災ボランティア調査隊)

未だ現地ではガスの危険があることから、参加者全員について健康調査票の提出、三宅島火山ガスの健康影響に関する「リスクコミュニケーション」が6月3日(金)都立園芸高校において、慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室の大前和幸先生による講義と火山ガス対策、ガスマスクの使用方法や注意事項についての説明が行われた。

日程については、当初6月10日(金)夜竹芝桟橋を出発し、11.12日の予定であったが、台風4号の接近に伴い一週間ずれて、6月17日(金)22時30分竹芝桟橋を出航となった。

翌18日(土)5時10分三宅島上陸、三宅村で準備してくださったバスにより、それぞれの宿舎に分かれて、仮眠・休憩を取り、午前10時より都立三宅島高校視聴覚室において、

「三宅島緑化プロジェクト現地植栽ガイダンス」が行われた。三宅支庁産業課の開会の挨拶に続き 1.都立三宅高校長 2.三宅村村長 3.三宅支庁長が挨拶された。ガイダンスの項目としては ①. 火山活動の歴史・噴火の特徴について三宅高校の青谷知也先生が説明された。特に三宅島の噴火の規模と周期には興味を感じた。続いて②、三宅島緑化ガイドラインについて東京都産業労働局農林水産部森林課課市郷係長が説明され ③、午後の作業について、植栽方法の説明・行動安全上の諸注意について三宅支庁産業課の山崎係長が行われた。

午後植栽現場へ三宅村チャータのバスに分乗して「釜の尻」へ行き徒步にて土佐林道の急な坂道を登り一部崩落のある「はちまき林道」を登り、あらかじめ杉の立ち枯れを伐採し準備されたヤードについた。植え方については三宅村森林組合の方が手本を見せてくれ、(オオバヤシャブシ)、(ヒサガキ)、(ヤツツバキ)を植えた。

ほかに、秋田県立鷹巣農林高校の参加者が持参してきた秋田杉も同時に植えた。この秋田杉を持参し植えたメンバーの中に建設局道路建設部及び道路管理部の現職の職員が参加していたことを知りなんとなく心の温まるものを感じた。

火山ガスの問題もなく無事当初の目的の植栽を終え、ほっとして三宅島最初である夜を迎えることができた。

6月19日(日)9時30分より伊豆非難施設において(緑化活動の進め方について)のディスカッションが行なわれ、①支庁の職員、②、三宅島災害・東京ボランティア支援せんたい、③、NPO法人園芸アグリセンター、④、東京都建設防災ボランティア、⑤、秋田県立鷹巣高校OB伊勢堂会の参加の基に行なわれた。

今回は第一回でもあり、事故がなく無事行事を終了することができほっとしたところである。

午後の残された時間を支庁の職員の厚意により、未復旧の林道及び工事真盛りの砂防ダムの工事現場等を見せていただき、眞の復興とはまだまだこれからものがあるよう感じた。

午後2時20分、乗船手続きを終え三池港を出航帰路についた。

東京都建設防災ボランティア協会としては、会員及び関係機関との協議を重ね今後の取り組みについて検討してまいりたい。

監事 矢野末義

新宿駅西口広場イベントコーナー

「勝闘橋のパネル展示」予定

—8月13日から15日—

今年も8月のお盆に合わせて、新宿駅西口広場イベントコーナーで、「夏祭り」が開催されます。この「夏祭り」のイベントは、新宿駅西口広場を管理している東京都道路

雰囲気を味わってもらおうと、毎年開催しているものです。「金魚すくい」・「射的」・「綿アメ」や「駄菓子屋」更に、色々なパフォーマンス（大道芸・演奏・ダンス）など、縁日を新宿駅西口広場へ持つてこようというイベントです。



(昨年の夏祭り風景)

今年は、ガラスの扉の北側を縁日の会場とし、南側には、「東京の暮らしと橋」のテーマでの展示が計画されています。橋としては、江戸時代から都民に係わりが深かった隅田川をメインに取りあげるそうです。

その中で、最も下流に架かっている橋「勝鬨橋」については、ハイテクの橋として、パルネル展示をすることにしています。

勝闘橋については、資料館が5月1日に開館し、機械施設の見学ミニツアーも5月12日より始まりました。建設防災ボランティアの皆様方には、ミニツアーのガイドをお願いしているところですが、NHKで紹介（5月25日放映）されたことなどもあり、予約もほぼ満杯で都民の関心の高いことがわかります。また、このガイドは大変好評で、参加者からは、ガイドして頂いた皆様との記念写真や感謝の便りが寄せられています。熱心なガイドに、紙面を借りて御礼申し上げますと共に、今後ともよろしくお願ひいたします。

ガラスの扉で夏祭りと共に開催される橋に関するパネル展では、勝闘橋ミニツアーガイドの参考になることが多いのではないかと思っております。

お盆に東京にいる方は、お孫さんと共に、新宿駅西口広場のガラスの扉で催される「夏祭り」にお出かけになつては如何でしょうか。

(東京都道路整備保全公社よりの寄稿) お盆に東京にいる方は、お孫さんと共に、新宿駅西口広場のガラスの

扉で催される「夏祭り」に、お出かけになつては如何でしょうか。会員入院の会員登録申込
(東京都道路整備保全公社よりの寄稿)

(東京都道路整備保全公社よりの寄稿)

(聲田) 人玉

(續四) 人 田 吉 田
(續三) 人 田 吉 田

(卷三) 人 真 宗 日 記

最後の編集後記

最後の編集後記

平成14年度から16年度まで3年間「ボランティアニュース」の編集を担当させていただきました。第4号から第15号まで年に4回発行し、計12回出したことになります。

当協会に入会し、2年目のある日、吉田副会長から広報担当の理事になるよう打診されました。広報とは何をするのか尋ねたところ、中断していた機関紙の発行を再開してほしいとのことでした。機関紙の編集など全く経験はありませんでしたが、これも良い勉強になるだろうと前向きに考え即答した次第です。

そこで、当時紅一点の協会員で、二つの団体の編集をしていた斎藤サキ子氏に編集のイロハを教えていただきました。私がパソコンに精通しているように言う人もいますが、実は、私は還暦を過ぎたころから、パソコンをいじり始めましたので、PCの機能を充分に使いこなせず、糊と鉄で切り貼りし、第4号をなんとか完成させたというのが本当のところです。

その後、回を重ねるに従い、糊と鉄は PC 上の画面で編集できるようになり、デジカメの活用、メールでの原稿受信、スキヤナーの利用等々により、編集作業も楽しくなってきました。(まだまだ勉強すべき点は山ほどあります。)

もちろん、機関紙の発行は、編集作業だけではありません。編集会議、原稿集め、編集、校正、印刷、発行の各工程を経て、皆様のお手元に届く訳です。

編集会議は奥水氏を中心とした役員の皆様、校正は道路整備保全公社の金田氏、印刷・発送は公園協会の荒木氏に担当していただきました。

ここで忘れてならないのは、原稿をお寄せいただいた協会員及び編集部の求めに応じてご寄稿下さいました会員以外の方々の協力です。私の3年間の経験から、機関紙の編集は原稿さえ集まれば8割方完成したも同然だと言ってよいと思います。食材がなければ、料理のしようがないからです。改めて、原稿をお寄せ頂いた方々に感謝申し上げます。

最後に、機関紙が今日あるのも、沼尻会長を中心として、

活発な会の活動が背景にあることを記して筆を置きます。

がどうございました。

平成16年度総会後の新入会員紹介

- | | | | | |
|-----|---|---|---|--------|
| 伊 | 藤 | 浩 | 之 | (四建) |
| 杉 | 本 | 隆 | 男 | (南東建) |
| 吉 | 田 | 征 | 人 | (四建) |
| 川 | 口 | 真 | 人 | (三建) |
| 平 | 田 | 忠 | 夫 | (一建) |
| 松 | 本 | 幹 | 男 | (西建) |
| 本 | 間 | 弘 | 男 | (二建) |
| 小 | 林 | 和 | 治 | (六建) |
| 藤 | 河 | 完 | 治 | (西部公園) |
| 丸 | 岡 | 敏 | 夫 | (南東建) |
| 大久保 | 林 | 一 | | (北北建) |

平成16年度総会後の退会会員

- | | | |
|-----|----|--------|
| 川本 | 進 | (三建) |
| 小野瀬 | 勇 | (四建) |
| 安藤 | 晴雲 | (五建) |
| 漆 | 八郎 | (六建) |
| 石友 | 宏 | (六建) |
| 土捷 | 塚 | (南東建) |
| 正敏 | 屋 | (北北建) |
| 谷忠 | 井 | (北南建) |
| '日昭 | 貝 | (北南建) |
| 松吉 | 井 | (西部公園) |
| 山英 | 口 | |
| | 輔 | |
| | 慈 | (多摩動) |

敬称略()は参考事務所
長い間ご苦労様でした。

。すう先づ前に元年までの對賀の登場
説董は田村、細谷の貞吉とさむ中寺田木興は義全東嶽
田木義の会顧園公好善堂、圓明、田木金の持公全始開運
。さうまち式やひの「当掛」
樹式の式のせ管は多謝願、才のめぐみがては田ケニニ
は員会式まゝも不辭審にアサリにいふて諸事請ひ是員会
の時開封、ひき難翁の間中もつゆ。すう式開ひささのせ
アセ吉は多種同よ式は式は晴、さすは東方の謝願は義全
ひきの登場。すうNo.16号發行にあたって。すまい思ひは
まわす。申構御式さる貞吉は多謝願、工のめ、上に

前号までの広報・編集を担当していた城之内理事が、16年度で退任いたしました。後任は、小山、加藤の両名が担当することになりました。よろしくお願ひ致します。

城之内前理事には、今まで長い間ボランティアニュース編集に携わって頂きました、御労苦に改めて感謝申しあげます。

本協会ニュースの発行は、会員の皆様の寄稿・投稿が有って初めて可能になります。今後ともご協力方よろしくをお願い致します。なお、No16号に寄稿頂いた会員の方々に改めて感謝申し上げます。

庄報担当理事 小山 壽也、加藤 基雄

発行人: 沼尻 孱
発行: 東京都建設防災ボランティア協会
所在地: 東京都新宿区西新宿2-3-1
財団法人 東京都道路整備保全公社内
編集: 小山 幸也、加藤 基雄